



いっちょの

「人材×情報」で地域観光に活力を

井手修身 アイデアパートナーズ代表取締役社長

長崎県平戸市の「泊食分離」モデル

今年2月に国土交通省

の実証実験で、観光客が

旅館に宿泊し、別の飲食

店で食事ができる「泊食

分離」のモデル事業を全

国8カ所で行った。九

州では長崎県平戸市が

「平戸満喫！自由に食べ

てよかプラン」で名乗り

を上げた。

「泊食分離」は個人・

滞在型の旅行に対応した

宿泊形態の転換で、食の

自由度を持たせること

で、地域の食が魅力とな

るよう旅館や商店街が一

体となった地域循環経済

のしくみだ。

平戸では複数の宿泊施

設（旅館・民宿）に、1

泊朝食付き、2人1室の

ルームチャージプランを

設定。21施設が参画した

地域クーポン「よか券」

も発行し、飲食店や土産

物店、タクシー、教会巡

り体験、外湯めぐりにも

利用できるよう地域全体

で取り組んだ。

約1カ月の実績は、当

初予想の200人を超え

る227人が利用。内訳

は女性が6割、平日宿泊

が6割、連泊が2割だっ

た。同時期に全国で実験

された事業のなかで最も

参加者が多かった。

参加者アンケートを分

析すると、①地域クーポ

ど利用メニューの多彩さ

が評価された②同時期開

催の「平戸天然ひらめ祭

り」で、各旅館、飲食店

の値打ちある食事メニュ

ーが提供され、旅館外で

食事を取る理由があった

③プランの情報入手経路

で、観光協会のホームページ

①が3割と最も多く、

次いで新聞、雑誌のバブ

内夕食代が5401円、

お土産1938円、その

他1713円もあった。

5千円の「よか券」で1

81%の消費を促したこ

とになる。今回の補助1

500円を鑑みても十分

メリットが見られた。

「泊食分離」が温泉観

光地の旅館の個人・滞在

型旅行への転換策として

地域商店との連携を

過こし方③リ
ースナブルな
金額——な
な楽しみ方・

長く叫ばれながら、なか

なか実現しないのは、旅

館や地域商店にとって何

がメリットで、競争なの

が連携なのか構図が見え

ないことにある。

今回参画の事業者から

は「午後3時以降は夕食

の関係で宿泊を断ってい

たが、食事が分離されて

いるので受け付けた「夕

食は宿泊施設も飲食施設

もお客獲得では競争、よ

り9052円で

たい。

